

科目名	建築構造計画	英語科目名	Structural Planning	
開講年度・学期	平成27年度・前期	対象学科・専攻・学年	建築学科・5年	
授業形態	講義+演習	必修 or 選択	選択	
単位数	2単位	単位種類	学修単位 15+30 h	
担当教員	横内基	居室（もしくは所属）	建築学科棟3階	
電話	内線837	E-mail	yokouchi@小山高専ドメイン	
授業の到達目標	授業到達目標との対応			
		小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE)	JABEE 基準要件
	1. 構造計画の意義と位置づけを説明できる。	④	A	d-1
	2. 耐震規定の内容を理解し、構造計算の要点を説明できる。	④	A	d-1
	3. 構造計画を行う上で留意すべきポイントを説明できる。	④	A	d-1
4. 幾つかのモデルについて、適切な構造計画を考えることができる。	④	A	d-1	
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法				
達成目標1-4：中間試験，定期試験，自学自習課題等の提出物によって評価する。				
評価方法				
達成目標1-4：中間試験および定期試験による点数を70%，提出物を30%で評価する。				
授業内容	授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間	
1. 構造計画の意義と位置づけ	構造計画の意義と位置づけの明確化		4	
2. 法規の制約、耐震基準	日本における耐震関連規定の把握		4	
3. 設計荷重	設計用外力の内容を把握		4	
4. 敷地・地盤・基礎	敷地・地盤・基礎に関する用語の把握		4	
5. ブロック・平面・断面計画	各架構形式の特徴を復習		4	
6. 構造部材の設計	各種構造の部材設計方法を復習		4	
7. 耐震診断と耐震補強	各種耐震補強方法を調査		4	
8. 中間試験	意匠、設備、施工と構造計画との関係を調査		4	
9. 意匠、設備、施工と構造計画	構造計画を行う上で留意すべきポイントの総復習		4	
10. 構造計画の実践（課題説明・予備調査）	現地調査項目の整理		4	
11. 構造計画の実践（現地調査の実施）	現地調査データの整理・分析		4	
12. 構造計画の実践（現地調査の実施）	現地要再調査項目の洗い出し		4	
13. 構造計画の実践（構造計画の検討）	現地調査データの整理・分析		4	
14. 構造計画の実践（構造計画の検討）	構造計画の検討		4	
15. 構造計画の実践（プレゼンテーション）	レポート、プレゼンテーションの作成		4	
期末試験				
自学自習時間合計			60	
キーワード	企画、設計、用途、建築法規、構造システム、設備計画、コスト、施工、構造デザイン			
教科書	金箱温春：構造計画の原理と実践、建築技術			
参考書	1. 彰国社編「建築構造計画チェックリスト」、彰国社 2. 寺本隆幸「建築学入門シリーズ 建築構造の計画」、森北出版			
カリキュラム中の位置づけ				
前年度までの関連科目	鉄筋コンクリート構造、鋼構造			
現学年の関連科目	木構造、建築法規、建築耐震構造、建築施工			
次年度以降の関連科目				
連絡事項				
1. 建築の計画、設計、構造および設備など、各授業科目で学んだことを関連づけ、周辺知識を補強する科目である。また、建築実務に役立つ知識を習得することに主眼をおいている。				
2. 実際の建築設計を実施する流れに沿って、構造計画の方法を理解すること。				
3. 予習・復習を確実に行わなければ、目標達成(=単位取得)は無理である。				
シラバス作成年月日	平成27年2月23日			